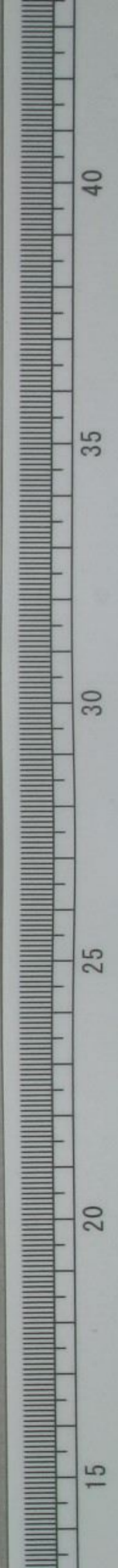




一夕醫巫話  
下

十武  
302  
9止



門中武  
第302  
卷9止

一夕鑿話卷下

三十第

問論タマフ如ク。我邦ト西戎トノ天稟風土ノ大ニ殊異ナルヲ  
モ辨ズシテ。妄ニ其鑿說ヲ用。彼ガ下風ニ立コトヲ耻ザルコト  
ハ。第一ニ國家ノ大恩ヲ忘レ。天神地祇ノ心ニ背。天下ノ罪人ト  
ナルベキコトヲ思ヘバ。ソノ冥罰ハ最怖ベキコトナリ。サレド。  
其可ナル者ヲ捨テ顧ザルハ。亦唯自己ノ好惡ニ偏テ。仁者ノ用  
心ニ非ト聽バ。取捨其宜キニ適テ。濟世ノ一助トモナルベキニ  
ハ。如何意得テ宜カルベキヤ。其酌用ヲ詳ニ示タマヘカシ。  
答テ曰。前ニモイフ如ク。我邦ハ易簡ヲ以テ風ヲ為ガ故ニ。我伎ニ

卷下

岡田  
藏書

於テモ。亦易簡ニシテ知易ク行ヤスク。弘ク世ニ施テ過寡キコト  
ヲ本意トスベキコトナレバ。予ハ唯一部ノ傷寒論ヲ以テ規則ト  
為テ教ヲ立ルナリ。サレド後世ニ至テハ。人ノ病モオノヅカラ衆  
クナリユキヌルヲ以テ。此書ノミニテハ。治術ニ缺乏ナキコト能  
ハズ。故ニ後世ノ藥方ヲモ參取テ之ヲ用ルコトハ。速クハ長田德  
本ガ十九方。救急十九方。極秘方。近クハ吉益周助ガ十二律方ヲ製  
セシ意ナリ。又蠻舶ノ藥物ヲ擇取テ之ヲ用シ例ハ。唐ノ世ノ外臺  
秘要。宋ノ聖惠方。和劑局方。聖濟總錄等ヲ初トシテ。世々本草ニモ  
蕃舶ノ藥物ヲ數多載タルヲ。既ニ前ニ辯ズルガ如シ。サレド漢土  
モ我邦ト同ク。纖密ナル事ハ。其天稟ニアラザレバ。西戎諸國ノ為  
トコロト同カラズ。今ソレラノ例ニ摸テ。西戎ノ藥物ヲ採用ニコ

トハ。漢土ノ醫學ヲ奉スル者ト雖。何ノ不可ナルコトアラフ。但西  
戎ノ如ク一物ゴトニ。精油。鹽。露等ヲ取。舍利別。煎熬等ニ製シ。又ハ  
一物ヲ分析シテ。各其用ヲ異ニスルコトヲ辯ズルガ如キニ至テ  
ハ。此方ノ人ノ天稟ニモ合ズ。且甚ニ猥雜ニ涉テ。然ルベカラザル  
コトモ亦多クレバ。其揣度ハアルベキコトナリ。且都下ニテハ。可  
ナリニ藥品モ賸得ラレドモ。村里邊境ニテハ。決シテ得難コト  
ナレバ。和蘭方ノミヲ用テ醫治ヲ為シコトヲ教ルハ。濟世ノ志ナ  
キ人ノ為コトナリ。凡テ我醫ノ術ハ。イカナル寒鄉幽裔ニテモ。事  
ノ缺ガルヤウナル治術ヲ修行スルニアラ子バ。之ヲ學得タリト  
雖。其詮ナケレバナリ。予ハ豫テヨリ斯ニ留意シヌルガ故ニ。西戎  
ノ藥物ヲ撰ムニモ。必猥雜ナラズシテ。効アルベキ品ノミヲ採テ。

之ヲ用タルガ故ニ。其真効ヲ辨得タルコトハ。今ノ世ノ和蘭鑿者  
ニハ選ニ優タルコトモ多キナリ。予ガ和蘭ノ藥劑ヲ撰用シテ自  
製セシ方數十首アリ。今其中ニ就テ。一二ヲ鈔出シテ示ベシ。今其  
藥物ノ中ニテ言ニ。紫茉莉根ノ如キハ。モト此方ノ赤白ノ花ヲ  
發ク「オシロイ」ト呼モノヤ根ナリトイヒシガ。其後瑤岐<sup>キ</sup>胡國ノ  
山中ヨリ出ル一種ノ草根ニシテ。紫茉莉ニアラザルコトヲ知レ  
ルヨシ也。此物ニ下利ノ効ヲ稱スレドモ。水ヲ瀉スルカタノ効優  
レル物ナリ。其効ヲ試ルニ。營實ノ大ニ水ヲ瀉テ後ニ。心下痞鞭ヲ  
發シ。鼠李子ノ水ヲ瀉スルコトハ速ナレドモ。後ニ渴ヲ起ス物ヨ  
リハ。其効迥ニ優テ。細末シテ服サスレバ。宿飲停水ヲ下スコト。至  
テ捷ナル物ナリ。予ハ小兒ノ解麴ニ。紫圓ノ用難キ者ニコレヲ用

テ。數効ヲ得タルコトアリ。又蟲ヲ下ス効アルコトモ試タリシナ  
リ。何レモ他藥ニ隊伍シテ之ヲ用ルナリ。近來清船ノ輸トコロノ甘遂。大戟。芫花等ハ。  
至テ下品トミエテ。其効少キノミナラズ。之ヲ輸コトモ多カラザ  
ルガ故ニ。其價貴クシテ。數試用シガタク。且人多クハ服スルコト  
ヲ厭ヘバ。予ハ十棗湯ノ散末ニ代ルニ此物一味ヲ以テシテ。偉効  
ヲ奏セシコトモアリシナリ。彼ハ此物ノ腸胃ヲ衝動スルコトヲ  
怖テ。砂糖。石鹼等ヲ隊伍シテ用レドモ。ツレヨリハ十棗湯ノ方意  
ヲ以テ。大棗ノ煎汁ヲ用ルカタ大ニ優レリ。古方ノ十棗湯ニ。大棗  
ヲ用タル主意ヲ種々ニ説ナセドモ。皆誣説ニテ至當ニアラズ。コ  
レハ甘遂等ノ三味ノ末ガ咽頭ヲ刺螫シテ。受納難ク。吐ヲ催サン  
コトヲ怖テ。此大棗ノ煎汁ヲ以テ之ヲ抱攝シ。滯ナク胃ニ下降セ

シメンガ為ニ用ルトコロノ。古人ノ活手段ナリ。予ハ此意ヲ得テ。大棗三錢許ヲ一貼ニシテ水煎シ。ソレニ蘭舶ノ輸トコロノ紫菜利根ノ細末五六分若クハ一錢許ヲ攪和シテ服サシムレバ。一貼若クハ二貼ニシテ。如何ナル粘滑ニシテ下降シ難キ宿飲停水ナリトモ。必瀉スルナリ。其甚シキ者ニ至テハ。藤黄ヲ用ルナリ。藤黄ヲ俗ニ誤テ「シワウト呼ドモ。雌黄トハ別物ニテ。蕃國ヨリ出ルトコロノ樹脂ナリ。然ルヲ李時珍ガ本草ニハ。樹脂ト言ナガライカデカ蔓草ノ部ヘハ入ケン。且ソノ主治ヲモ。タビ虫牙蛀齒ニ之ヲ點ズレバ便落トノミアリテ。其他ヲ言ザルハ。イト疎漏ナルコトナリ。此物ハ劇キ瀉水ノ劑ニテ。粘稠敗壞ノ宿飲停水ヲ峻下スル偉効アルコトハ。西戎ノ醫人ノ經驗ナリ。又蟲ヲ驅ノ効ヲ稱ス。予

ハ昔ヨリ此物ヲ用テ。脚氣衝心ノ危険證。オヨビ水腫ノ内攻シテ。小便通ゼザルモノニモ。與テ効ヲ得タルコト多ク。蟲ヲ下ス効ヲモ亦試験セシナリ。世ノ和蘭醫ガ水氣衝心ヲ治スルニモ。絶テ之ヲ用ル者ナキハ。彼穿鑿ニ過ル謬見ニテ。親ク之ヲ病者ニ驗タルコト無故ナリ。殊ニ世ニ所謂脚氣衝心。マタハ傷寒。痢病ナドノ。勢劇キ者ニ至テハ。今ノ蘭醫ノ療スル所ヲ看ルニ。至テ拙劣ナルコトヲ為テ。多クハ治シ得ザルハ。刺ニ小刀細工が過ル故ナリ。忽テ其病因ヲ論ズルコトハ。纖悉ナルニ似テ。人ノ耳ヲ驚セドモ。病ヲ治スルコトハ。至テ疎漏ナルハ。從來佞媚哄騙ヲ主トスル薄行ヨリ起ルコトナレバ。カ、ル至劇ノ劑ナドヲ試験スルニ至ラザレバナリ。此藤黄ハ。水ヲ逐痰ヲ驅ノ効アルガ故ニ。肺水。水腫ノ類ニ

用テ。能水ヲ下スコト。予ガ試験モ亦多シ。併ナガラ此物ハヤ、モ  
スレバ吐ヲ誘コトアレバ。豫其用意アルベキコトナリ。此物ヲ用  
ベキ證ニシテ。病勢ノ一等劇キ者ニハ。走馬湯。榨タル巴豆油。備急  
圓。徳本ノ礬黃丸等ヲ用テヨシ。畢竟此物ノ水ヲ瀉スル効ヲ巴豆  
ニ比スレハ。稍緩慢ナル物ト意得テヨシ。然イヘ巴豆ト性効ノ同  
キ物ト言ニアラズ。又厥等ノ病ノ陰位ニアリテ。元氣疲弱シテ。小  
便通ゼザル者ノ諸藥効ナキニハ。葛上亭長ヲ與テ。異常ノ効ヲ奏  
スルコトアルモ。西戎鑿ノ羌菁ヲ用タル發明ヨリ出タル事ニテ。  
予ハ多年之ヲ試用シテ。其驗アルコトヲ確ニ知タルガ。是等ハ殊  
ニ漢土我邦ニハ言ザルコトニテ。能其意ヲ領解スレバ。死ヲ回ス  
所ノ峻効アル事ナレド。世ノ和蘭鑿ハ却テ此等ノ物マデヲ確ニ

試験セシ者ハ無ヤウナリ。偶ニ此物ヲ火酒ニ浸出シタル物ヲ此  
ニ用ル者モ。大ニ和蘭人ノ意ニモ背タル處方多クシテ。却テ害ヲ  
招クコトアルヲ省タルコトアリ。又前ニイヘル制綿施那ヲ。外臺  
秘要ノ方中ニ用タルコトハ。予ガ始テ檢出セシコトニテ。小兒直  
訣ノ安蟲散。大蘆會丸。聖濟總錄ノ蘆會丸等ニ用タル鶴蟲モ。必此  
物ナラ子バ。蟲ヲ治スル効ハ有ベカラズ。然バ趙宋ノ時代ニモ之  
ヲ異方ヨリ輸來シテ專ニ用タル者ナルベシ。此物ニハ下利ノ効  
ナケレバ。大黃若クハ紫茉莉根ヲ隊伍シテ。予ハ數用テ効ヲ得シ  
ナリ。此物ハ繁茂シ易キヨシヲ言バ。異人ニ命シ御ヒ。其種子ヲ又  
輸サセテ。此方ノ然ルベキ地ヘ培養サセタキモノナリ。又  
幾那幾那ノ皮ヲ。西戎ニ指テ解熱皮トイフハ。腸胃ニ汚滯ノ物ハ  
盡ク除罄テ。單純熱ノ三時ヲ定テ來ル者ニ。此物ヲ用テ効有ガ故

ニ稱スル所ニテ。予ガ往昔ヨリ之ヲ試用セシニ。日毎ニ七八莪マ  
 テモ用テ。確ニ其功驗ヲ知タルガ。今ノ和蘭醫ハソレマデニ試用  
 セシ者モアラ子バ。真實ニ之ヲ辨知シタル輩モナク。唯此方ニテ  
 附子劑ヲ用テ効アルヘキ傷寒ナドニ逢バ。必之ヲ與ルコト、ス  
 レド。其ハ和蘭ニ此物ヲ用ル所ノ昔ヲ了解セザル輩ノ為コトナ  
 リ。此物ハ。附子トハ其性功ノ大ニ異ナル物ニテ。決シテ代用スベ  
 キ物ニハアラス。實ニ時ヲ定テ發スル頭痛。胸腹痛。及下利。又ハ瘡  
 疾ナドニモ効アル一種ノ物ナガラ。耳食輩ノ賞揚スルホドノ奇  
 藥ニモアラス。畢竟ハ無テモ事ノ缺ヌモノナリ。幾那ノ羅助求塩  
收斂。防腐。強壯等ノ功カヲ脱失シ。阿芙蓉ノ母。累ハ烏務。米姑。尼烏。  
年。那。古。知。泥。要。基。素。分。ノ。四。ヲ。分。拈。ス。レ。バ。却。テ。天。然。ノ。功。カ。ヲ。脱。  
失。ス。ル。ガ。故。ニ。怒。テ。幾。那。ヲ。用。ン。ト。思。ハ。バ。直。ニ。由。返。良。年。奴。ガ。論。セ。シ。  
ヲ。用。ン。ト。思。ハ。バ。直。ニ。阿。芙。蓉。ヲ。用。ベ。シ。ト。比。由。返。良。年。奴。ガ。論。セ。シ。

ハ。西戎人ニ在テハ。至當ノ確言ナルヲ。今ノ世ノ  
 西戎鑿ハ之ヲ顧慮セザルハ。皆昧ナルコト也。又盧會ハ。唐時代  
 ヨリ。漢土ニテモ用ル所ニシテ。本草ニコレヲ波斯國ニ生ズル所  
 ノ樹脂也トシテ。香木ノ部ニ出シタレド。是ハ龍舌草ノ脂ナレバ。  
 樹脂ト思シハ誤ナリ。サレド時珍ハ一統志ヲ引テ。瓜哇。三佛齊諸  
 國ニ出ストコロハ。狀鸞尾ノ如シトアレバ。木質ニシテ草形ナル  
 物カト疑シテ。啓蒙ニハ。草盧會ニテ。臺灣府志ニ。龍舌草ヲ俗ニ草  
 盧會トイフタル物ナリト言タレド。タバ出ス處ニヨリテ色質  
 ノ優劣アルノミニテ。皆一物ナリ。且盧會トイフ名ハ。此物ノ蠻名  
 ラ「アロエトイフ。アハ發語ニテ。口エトイフ名ニ充タル對譯字ナ  
 ルヲ。盧ハ黒キライヒ。會ハ聚ノ義ニテ。黒色ナル凝塊ヲイフノ名  
 ナリナド言ルハ。漢土人ノ例ノ誣タル說トモナリ。漢土人ハ。此物

ヲ小兒ノ疳疾ナドニ用ヒ。又ハ蟲ヲ殺シ疳疾ヲ治スルコトヲノ  
ミイヘリ。蟲ヲ驅ノ効ハアレド。疳疾ヲ治スルコトヲ言ルハ。全ク  
誤ニテ。此物ヲ用テ却テ疳疾ヲ發スルコトアレバ。豫其用心有ベ  
キコトニテ。予ハ此物ヲ用テ。疳毒ノ内攻シテ。腹内ニ癥癖ヲ結テ  
惱者ニ。長服セシメテ。再疳疾ヲ喚發シ。又ハ血ヲ下テ治シタルコ  
トヲ。數試驗セシコトアリ。其他肥前瘡。黴疾。及小兒ノ胎毒ナドノ  
内鬱ヨリ。種々ノ患ヲ為モノ。下スニ宜キ證ニハ。用テ腹痛ウク  
シテ。大便ヲ下利シスベテ。内鬱ノ毒ヲ驅トコロノ効ヲ實驗シタ  
ル自製ノ方アリ。近世西戎ニハ。盧會ハ毒アリト云テ。廢シテ用ザ  
シテ。確ニ其効驗ヲ知テ。常用ノ品トナセルナリ。惣テ藥物ノ毒ハ。  
即其強ナレバ。強ニ此一物ノ上ニノミ言ベキコトニハ。非ズト思  
シ。又礪砂ハ。モト駱駝牛馬ナドノ尿ヲ蒸餾シテ取タル物ニテ。外

臺秘要ニ之ヲ用ヒ。宋以後モ專用テ。其効ヲ稱スレドモ。漢土ニハ  
西域ヨリ多ク之ヲ輸テ。製法ヲ詳ニセズ。誤テ消石ノ類ノ鹵液ノ  
生ズル所ノ物ナリトシテ。コレヲ鹵石ノ部ニ入タルナリ。此物ノ  
効用ハ。本艸ニ言ルトコロ頗可ナリ。予ハ白通湯ノ人尿ニ代ルニ。  
此物ヲ以テスレバ。病家ニモ厭ハル。コトナクシテ。確ニ其効ア  
ルコトヲ驗タルナリ。マタ揮發透竈ノ氣味尤烈キモノナルガ故  
ニヨク。壅塞ヲ開達シ。宿滯ヲ疎通スルヲ以テ。長田徳本ガ此物ヲ  
酢荅ニ隊伍シテ。反胃ニ用タルニ倣テ。予モ數試用シテ。驗ヲ得シ  
コトモ多カリシナリ。又阿魏ノ如キハ。本艸ニモ癥積ヲ破。心腹痛  
ヲ止。肉積ヲ治スルコトヲ言リ。此物ノ壅塞ヲ開キ。凝塊ヲ摧コト。  
實ニ其効ノ偉タルモノニテ。殺蟲ノ功モ確ニアル物ナレド。臭氣



ノ甚シキヲ以テ人多ク服コトヲ厭モノニテ。普ク用ヒガタシ。又此物婦人ノ藏躁諸證ニ係者ニ殊ニ効アリ。金匱要畧云ル。婦人藏躁トアル藏ハ子藏ニテ。子宮ノ事ナルコトハ。礬石丸ノ條ニ。煉蜜和丸。棗核大。内藏中。劇者再内之ヲアルニテ。明ニ知ラレタルコト也。西戎鑿ハ。是藏躁ヲ子宮衝逆病トイヘド。是ハ衝逆ニハアラズ。挈擊スルナレバ。此稱呼ハ穩當ナラザルニ似タリ。此證ハ。子宮ノ躁擾ノ擊挈ニヨリテ。種々ノ怪状ヲ發スルモノニテ。瘕病ニ類似シタル證ヲ發スルモアリ。手足ヲ顫動シ。或ハ胸腹ヨリ手足へ拘攣スルモアリ。上衝シテ。昏冒失氣スルモアリ。金匱要畧ニ言トコロノ。悲傷欲哭。象如神靈所作トアル證ニ。輕重ノ差ハアレド。コレガ藏躁ノ證ノ状態ニテ。然モ變動多ク。泣カト思ヘハ笑ヒ。鬱悒ス

ルカトオモヘバ。忻躍シ。深黙シタリ。吟嘯シタリ。甚キニ至テハ。其状幾狂ニ似タルモノアリ。或ハ直ニ狂氣トナルモ亦有テ。變化預言ガタキ者アリ。サレド其證ハ悉皆子宮ノ躁擾ノ諸部へ感動攣引スル者ナルヲ呼テ衝逆ト言バ。子宮ガ其部分ヲ離テ衝逆スルヤウニ聽エテ。名實相背ケリトス。此證ニ。阿魏ヲ用テ偉効アリ。サレド其尤神効アリテ。驚カル。ガ如キ者ハ。甘麦大棗湯ナリ。和蘭鑿ハ。此證ニ。麝香カハ私多ト。龍腦リウノウ穿心敗醬センシンバイジャン。阿芙蓉アハフツ。菲沃葉ヒワクエフ。萬苜煎マンモクケン。熬没藥モクハ。和蘭人ハ。阿魏アウイヲ用レド。此方ノ蘭鑿ハ。コレヲ用ワル者少ナドノ種々ノ物ヲ亂投シ。刺絡。蟻鍼發泡ナドヲシテ。操作煩掉ナル治療ヲ施ナドシテ。寢ニ治スルコトヲ得レド。此甘麦大棗湯ノ分量ヲ作畧セズ。本方ノ如ク一貼四五錢許ニ作テ。然ニ三四貼モ與

レバ。神靈ノ所作ノ如キ状態モ。顫動。拘攣モ。忽ニ穩ニナリテ。不日  
ニシテ愈ルコトヲ得ルコトハ。予ガ壯歲ヨリ數試驗シテ。自己ニ  
モ其成功ニ駭コト有者也。此一事ニテモ。漢土古方ノ意表ニ出タ  
ル神妙ノ活手段ト。西戎鑿伎ノ小刀細工トノ優劣ハ。知ベキナリ。  
又阿魏ノ蟲ヲ征スルコトハ。數實驗セシニヨリテ。一方ヲ自製シ  
テ驅蟲丸トイフ。俗ニ寸白ト稱テ。腰脚へ牽攣シテ。甚キハ。行歩ヲ  
妨。小腹拘急シテ悩コト。疝氣ニ似タル者アリ。寸白トハ。條蟲又長  
蟲ト言物ヲ。俗ニ誤テ寸白蟲ト言ノ名ニシテ。此長蟲有ニヨツテ  
發スル者マ、アリ。外候ニモ蟲有ニカト思ハル、ナラバ。此驅蟲  
丸ヲ多ク服サセテ試ベシ。又ハ阿魏一味ヲ丸トナシテ。久ク服サ  
シムレバ。長蟲ヲ下ス効アリ。又阿魏ニ藤黃十分一ヲ配シ用テ効

ヲ得タルコトモ有シナリ。此長蟲ハ。腸中ニ蟠テ。頭ノ方ヲ上ニシ。  
尾ヲ下ニシタレバ。偶ニ肛門ニ垂下リタルトキ。駭トキ遠テ曳出サシ  
トシ。尾ノ方ノミ斷テ。腸裏ニ殘タル頭ノ方ハ死ズシテ。再延長ス  
ルモノト察テ。歲ヲ累テ。前後數十丈ヲ下セシ者ノアリシナリ。往  
昔此長蟲ノ候アル者ニ。試ニ一切ノ穀食ヲ斷セ。樞實ヲ十日許喰  
タリシガ。蟲死シテ。全體ヲ一時ニ下シタル者アリ。ソレヨリ推テ  
此阿魏ニ。此蟲ヲ殺ノ功有コトヲ知テ。之ヲ此證ニ多ク用テ。數偉  
効ヲ奏セシナリ。又此長蟲ヲ下スニ。波斯鶴蟲ヲ試用シテ。効ヲ得  
タルコトモアリシナリ。又菲阿斯ヒアス失亞密シヤミ畧シテ菲阿斯ト呼。コレ  
モ一種ノ麻藥ニシテ。藏躁病ニモ効アル物ニテ。阿芙蓉ト効用畧  
相似タル物ナレドモ。阿芙蓉ハ峻麻劑ニテ。多服レハ人ヲ殺ノ畏

アル物ナレバ。慎ベキコトナルヲ。近世道聽塗說ノ蘭鑿輩ガ。一知  
半解ノ處置ヲ以テ。其當否ヲモ辨ズ。此等ノ物ヲ安ニ用テ。唯病家  
ヲ誑賺スル香餌ト為テ。人ヲ損害スルコトノ尤多キハ。當世ノ一  
厄ニシテ。和蘭鑿流ノ世ニ行ハレテヨリ。此物ヲ亂投シテ非命ニ  
死シタル者ノ多キコトハ。舉テ數ヘ難キコトナルベシ。然ハ能其  
利害ヲ辨  
知タル公平ノ取捨ニ出ズシテ。如斯至毒ノ品ヲ安投スル。此  
一事ニテモ。其功ヲ以害ヲ掩コト能ザルヲ察スベキナリ。菲阿  
斯ハ。阿芙蓉ノ如キ甚シキ麻醉疲憊ニ至シムルホドノ巨害ハア  
ラ子ド。是モ又一種ノ麻醉ニシテ。能瘥癢ヲ鎮。諸痛ヲ止ル効用ハ。  
ホゞ類似セル物ナレド。妄ニ用テハ。人ヲ損フコト無トハ言難キ  
物ナリ。此草。西域諸國ノ原野路傍ニ滋生スルヨシナリ。其形狀ヲ  
察スレバ。大方ハ此方ニモ有ベキ物ト思ルレド。イマダ之  
ヲ詳ニ此菲阿斯ニ代シニハ。葛苴ノ至テ得易クシテ。然モ効用ノ

相伯仲シ。麻醉ノ患少キニシカズ。此物ハ子宮ノ躁擾。及肺痿ノ咳  
嗽。小兒ノ驚風。搐搦等ニモ。用テ効アルモノナリ。今予ガ是等ノ物  
ヲ用テ自製スル所ノ方中ノ一二ヲ鈔出シテ示スヲ觀テ。宜ク三  
隅ヲ以テ之ヲ反フスベキナリ。先藤黃ヲ用タル方ハ。  
瀉水丸 肺水。喘咳。水腫。腹滿等ヲ治シ。大ニ宿飲。停水ヲ瀉下ス。

藤黃 四錢 海葱 二錢 革撥 二錢

右三味。米糊ニテ丸トナス。藤黃ノ量。大畧二分許ヲ用レバ。停水  
ヲ瀉下スルガ故ニ。一次ニ此丸ノ廿分一。輕者ニハ卅分一ヲ用  
ルナリ。或ハ海葱ヲ去テ用ルモ亦可ナリ。

又。盧會ヲ用タルハ。  
調胃丸 腸胃和セズ。氣閉シテ。大便難者ヲ治ス。

大黃 三兩 盧會 三兩 胡椒 一兩

右三味。細末。糊丸。

健中丸 生熟二藏疲倦シテ。尿尿澀滯スル者ヲ治ス。

盧會 四兩 胡黃連 二兩 豬膽 一兩 此物近來偽造多ク真ナル物ヲ得ガタシ。諸膽効用

ホト同ケレバ。生牛ノ膽ヲ得テ之ニ代テ用ベシ。此項牛膽ニモ。又偽造セル物ヲ鑿タレバ。宜ク撰ベシ。

右三味。二味ヲ細末シ。膽汁ニ米糊ヲ和シテ丸トナス。

鮮凝丸 咳嗽。喘哮。及小兒ノ疳疾。室女ノ面色皎白。萎黃ニシテ。眼

ニ精彩ナク。鬱悒スル者。及黃胖病。若クハ婦人藏躁等ノ大便澀

滯スル者ヲ治ス。

盧會 沒藥 藥舖ニ煉没藥ト稱スル物ヲ用。 紫釰

絳礬 各等分

右四味。細末。糊丸。

胡黃連丸 腸胃汚滯。小兒疳疾。虻蟲。諸證ヲ治ス。

胡黃連 蕪荑仁 盧會 各一兩

麝香 二錢 巴豆 五分

右五味。糊丸。此方ハ原聖濟總錄ニ出タルヲ増損セシモノニテ。予ガ用ル所ハ。彼書ニ言トコロトハ。聊異ナルコト

アレバ。記テ參考ニ具シナリ。

又阿魏ヲ用タル者ハ。

中央丸 虻蟲。諸證。及婦人藏躁病等ヲ治ス。

阿魏 丁香 豬膽 木香

胡黃連 各等分

右五味。細末。糊丸。

去疾丸 前證下スニ宜キモノニ之ヲ用。

阿魏 二兩 大黃 二兩 盧會 一兩 猪膽 五錢

石鹼 二錢

右五味。細末。糊丸。

又礪砂ヲ用シ方ハ

狄塩丸 膈噎。反胃。癥瘕。積滯。或ハ胸腹劇痛シテ。黒汚ノ物ノ味苦

キ物ヲ吐スルヲ治ス。

礪砂 一兩 丁子 二兩 大黃 四兩

右三味。細末。糊丸。

赭丹丸 翻胃。噎膈。腸胃調和ノ機ヲ失ヒ。病苦ヲ發シ。壅塞ヲ致者

ヲ治ス。翻胃。噎膈ノ病ニ於テハ。其因異途ニシテ。和漢ノ先達モ

シテ。經驗ノ活手段アリ。其證ハ。此等ノ劑ヲ用ルモノトハ。大ニ  
其趣ヲ異ニシ。治法懸隔スルモノニテ。誤混ズ可ラザル一種ノ  
證ナリ。其差別ハ。後  
日ニ之ヲ語ルベシ。

酢荅 三兩 礪砂 朱砂 或ハ銀朱ヲ用。

右三味。細末。糊丸。此方ハ。長田徳本ガ極秘方ニ出タルヲ

又西戎鑿ノ藥劑ノ。暗ニ古方ノ意ニ似テ。直ニ今日ノ用ニ供スベ

キモノアリ。其中一方ヲ記テ示ス。方銘ハ予ガ稱スル所ナリ。

利膈丸 心下痞鞭。嘔逆。噫氣。腹痛。雷鳴。下利スル者ヲ治ス

半夏 細末。生薑汁ヲ大ニ加ヘ。渡テ數箇ニ分。烈日ニ乾タル

テヨ 石鹼 色白キ者ヲ用。別ニ 牛膽 六錢 ○敗壞セザル者

ノ真ナル物ヲ得バ。代

用スルモ亦可ナリ。代

右三味。糊丸。半夏瀉心湯。生姜瀉心湯ノ證ニシテ。煎湯ヲ服

又攝絲施那ニ紫葉利ヲ隊伍セシ方ハ。此物ヲ紫葉利ノ俗ニオシ  
モ穩當ナラズトイヘリ。然ハ是一種ノ草根ニシテモ此方ニ充レト  
マダコレニ充ベキ物ヲ詳ニセズ。暫紫葉利ト稱スルコトハ。猶  
攝絲施那ヲ鶴蝮トイフガゴトシ。

制蟲丸

波斯鶴蝮 西戎ノ羅甸名ニ攝絲施  
那トイフ物是ナリ。ハ莖

紫葉利根 八分。或代ルニ大  
黄ヲ以スレバ分

量ヲ 甘草 六分

右三味。細末。糊丸。大人ハ分テ八服トナシ。日ニ二服ス。散服効尤  
速ナリ。鶴蝮ハ煎服スルヨリ。散ト為テ用ルカタ。其効優ルヲ以  
テ。一味ヲ散ト為タルヲ。他ノ煎劑ニ點服スルモ亦可ナリ。

又外臺秘要ニ波斯鶴蝮ヲ用タル者三四方ヲ出シテ。之ヲ示ス。時  
宜ニ應ジテ試用スベシ。其方。

張文仲療蛔蟲心痛。鶴蝮散方

鶴蝮 二分。末。唐シテ唐世ニ大分ノノシタルヲ一  
分トイフ。乃ニ莖五分  
モノトニ。然シテ唐世ニ大分ノノシタルヲ一  
分トイフ。乃ニ莖五分  
收ノ重ニ當ル。小秤ハ之ヲ三分ニスレバ。一  
兩ハ今ノ二錢ニ當ル。今ノ一兩ハ今ノ二錢ニ當  
有奇ニシテ。二分ハ今ノ四分ニ當ル。今ノ一分ハ  
全ク實ニアレバ。今ノ一分ハ今ノ四分ニ當ル。今  
ノ一分ハ今ノ四分ニ當ル。今ノ一分ハ今ノ四分ニ當  
用ルカタ尤可也。餘ヲ今ノ一分ハ今ノ四分ニ當  
分量大畧 此ニ同シ。

延年療蛔蟲惡心。原本疑ラクハ心ノ字  
ヲ脱ス。今之ヲ補フ。吐水。心痛。鶴蝮丸方

鶴蝮 三兩

擣篩。蜜和為丸。用蜜漿水。平旦服。古今錄驗用二十兩。云。韋雲患

又。鶴蝮丸療蛔蟲心痛方

鶴蝮 六兩

吳茱萸 五兩

橘皮 四兩

桂心 三兩

檳榔 四兩

右五味。搗篩。蜜和為丸。蜜湯下。以蟲出為度。

廣濟。主心腹攪結痛不止。仍似有蛔蟲者。當歸湯方

當歸 此時代當歸ヲ用ルハ多クハ拘急腹痛ヲ治スルガ為ニシテ後世ニ用ル所トハ其主意大ニ異ナル者也

橘皮 細辛 甘草 生薑 各四分

大黃 ハ分 鶴蝨 二分 此方大黃ハ二分。鶴蝨ハ八分ナルベシ。効ナク。且大黃ヲ大ニ加レバ。蟲ヲ驅ルニ利アラズ。然レバ。此ニ物ノ分量ハ。互ニ誤寫セシコト必セリ。

右七味。切。以水六升。煮二升。分温三服。

南北隋唐ノ頃ニ。攝棉施那ヲ用タルコト。是等ニテ想見スベシ。

又蒿苳ヲ用ル方ハ。

趁痛丸。癰疽諸疾。咳嗽。嘔逆。胸腹疼痛。婦人臧躁。スベテ拘攣ヨリ

來ル者ヲ治シ。痛ヲ和シ。睡ヲ催ス。効用稍阿芙蓉ニ似テ。頗鈍。阿

芙蓉ノ如キ損害ヲ致コトナシ。

蒿苳

右一味。全莖ヲ搗。膠ネキテ生汁ヲ取。火上ニ煎シ。凝結セシメテ。丸ト

ナシ。一次ニ二分ヨリ五分マデヲ服サシム。前ニイフ壹兩ヲ四

ズ。一錢ノ十カ一ナリ。誤混ズベカラズ。此物ニ毒アルコトハ。時珍ノ本草ニモ既ニ

之ヲ言テ。蒿苳ニ毒アルガ故ニ。百蟲敢テ近ヅカズ。蛇虺之ニ觸

レバ。目瞑シテ物ヲ見ズ。人其毒ニ中レバ。薑汁ヲ用テ之ヲ解ス。

又久ク喫ヘバ。人ノ目ヲ昏スナド言テ。乳汁ヲ通ジ。尿血ヲ治ス。

ル効ヲモ稱バ。是亦試ベシ。サレド是モ亦麻劑中ノ一種ナレバ。

過用長服スルコトハ。深ク誠ベキナリ。又阿芙蓉ノ實驗。葛上亭

長内脈ノ効用。水銀諸劑。吐酒石。信石。葶石。曼陀羅華等ノ劇劑ノ  
運用ニ至テハ。俄頃ニ說罄スベキコトニモアラズ。後日ニ之ヲ  
傳ベキナリ。

問。明末ニ。利瑪竇。艾儒畧ノ徒ノ。天主教ヲ弘メテ。世ヲ詔<sup>カ</sup>ントセ  
シニ。清初ハ其弊ヲ知。獨天學ノミヲ殘テ。邪教ヲ廢絶シ。鑿學ハ  
國土ニ昔ヨリ傳來セシマ、ニテ。唯藥物ノ邦土ニ産セザル物  
ノミヲ採用タルハ。其時ニ應ジタル便宜ノ所置トモイフベキ  
ナリ。今其等ニ效テ。此方ニ無トコロノ和蘭ノ藥物ヲ採テ。自製  
セラレシ藥方數首ヲ觀ルニ。明清ノ製方ニハ遜ニ優リ。盡ク簡  
約ニシテ的確ナレハ。循用シ易ク想ハル、ノミナラズ。斯テハ  
異方ノ藥物ト雖。直ニ我物ナレバ。イカニモ心ニ慊<sup>コトク</sup>覺ルナリ。サ

テ今西戎鑿ノ如ク。深ク病因ヲ穿鑿シ。詭異ノ行ヲ為サズ。漢土  
後世ノ妄誕附會ノ鑿說ヲモ一掃シテ。唯傷寒論ノ規則ニ本ツ  
キ。病ノ有餘不足ト。三陽三陰ノ病位ヲ明カニシ。專見レテ知易  
ク辨易キ脉ト證ニ應ジテ治術ヲ施コトノ。此邦ノ風土ニ相應  
シテ。鑿術ノ大道ナル說ハ。尤的確ト稱スベク存ズレバ。今日ヨ  
リ一途ニ此ニ從事シテ他ヲ顧ズ。設偶彼西戎ノ藥物伎倆ヲ採  
用スルコトアルモ。必シモ彼ガ蹤跡ニ效ハズ。猥雜煩冗ニ涉ラ  
ズシテ。我風土ニ相應スベキ酌用ヲ旨トシテ。義膽ヲ失ハズ。實  
造實詰ニ之ヲ研究スベキコト、懷ヘリ。唯竊ニ患ル所ハ。年久  
ク慣来リタル俗情俗慮ヲバ。如何シテ力速ニ除去ベキヤ。  
答テ曰。心ヲ養フハ。慾寡キヨリ善ハナシト云シハ。孟子ノ至言ナ



リ。多慾ナルガ故ニ。俗情モ進ユキテ。事々道ニ背キ。伎術モ拙クナ  
ルモノナリ。故ニ我鑿ノ道ニテハ。私欲ヲ省キ。俗情ヲ除去ヲ以テ。  
第一ノ用心トスルコトナレバ。遜思邈ガ千金方ニモ。首トシテ之  
ヲ論ジタルナリ。斯シテ能人ノ人タル理ヲ推窮テ。天地ノ真理ヲ  
發明セシコトヲ懷テ止ザルトキニハ。自發明ノ期アルベキナリ。  
併ナガラ。及其至也。雖聖人亦有所不知焉トイフテ。其極旨ニ至テ  
ハ。聖人スラ知コトヲ得ズ能セザルコト有者ナリ。然ルヲ况ヤ庸  
人ヲヤ。其知ベカラザル者ヲ。強テ知。能ス可ラザル者ヲ。強テ能セ  
ントスレバ。多ハ意匠左計ニノミ陷テ。悉皆牽強傳會ノ妄言誣說  
トナルヨリ外ハナキモノナリ。假令ハ。西戎ニテ死。軀ヲ解剖シテ。  
衝ニ因テ死スル者トシ。爾後其ニ類似セル病者ニ會毎ニ。放血  
術ノ療術ヲ安施シテ。治ヲ誤ル者多キ弊ヲ。彼方ノ鑿籍ニ記タル

モ。悉皆知ベカラザルヲ。強テ知ント欲スル。牽強傳會ヨリ起ル所ノ過失ナリ。然アラニヨリハ。前ニモ言  
如ク。寒ケレバ衣ヲ襲。餒ルトキハ飯ヲ喫。朝ニハ戸ヲ開キ。暮レハ  
燈ヲ掲ルガ如キ。見レテ知易ク行易キ道ニ從テ。鑿術ヲ為ノ危殆  
ナクシテ。成効ノ確實ナルニ如ザルベシ。能此心ヲ擴テ。變ニ不窮  
ニ應ズルトキニハ。一切ノ病ヲ療ズルニ。障碍アルコト無ニモ至  
ニコトハ。聊疑ナキコトナリ。故ニ吾子。今日ヨリ此邦ニ生レテ稟  
得タル。日本魂ヲ呼起シテ。義憤ヲ我鑿術ノ上ニ建テ。孫子ガ兵法  
ニモ言トコロノ。知彼知己。百戰不殆。又善戰者。致人而不致於人ト  
アルガ如ク。能彼此ノ差別ヲ明ニシテ。西戎鑿ノ為ニ致サレテ。彼  
等が使役トナリ。國體ヲ汚サヌヤウニス可コトナリ。且前ニモ既  
ニ言ルコトナガラ。彼が祇教六科中ノ理科ニ。理トハ必先物アリ

テ。而シテ後ニ生ズル所ニシテ。理ハ物ヲ生ズル者ニアラズト説  
テ。理ヲ以テ萬物アリテ後ニ。其萬物ノ體質ニ具生スル者トシ。ソ  
レヲ智力ヲ以テ拆知ヲ。理科ノ專務トストイヘリ。是ハ事ト理ヲ  
僻錯<sup>ヒツク</sup>理ニ體用アルコトヲモ辨ズ。纔ニ一物毎ニ具有スル所ノ理  
ヨリ生ジタル事ノ用ヲ認テ。ソレヲ理ト言ルマデニテ。事物ノ形  
ヨリ下ナル者ヲ論ジ。形ヨリ上ナル者ヲ知ズシテ。窮理ト稱スル  
コソ可笑ケレ。抑此理トイフハ。天地ノイマダ剖判セザル以前ヨ  
リ。天地トナリ萬物ト成ベキ所ノ理ハ。自具リ。一定シテ動ス可ラ  
ザル者。是理ノ本體ニシテ。道ノ根元ナレバ。禽獸ニ近キ蠻貊ノ徒  
ノ能知得ベキコトニハ非ルナリ。湯茶ノ熱キ物ハ。之ヲ容ル器ナ  
シテ造リ。雨降トキニハ。之ヲ凌ク物アルベキ理アルニ仍テ。茶  
ヲ製スルガ如キ。一切ノ物ノイマダ製造セザル以前ニ必此理アル  
然ルニ。是理ノ本體ニシテ。茶益若ハ。簞笠ヲ製造スルハ。是理ノ用ナリ。  
シテ。然ルニ。西戎人ノ窮理ト稱スルハ。此事理ノ本末ヲモ辨ヘズ。顛倒  
國ノ人ノ唱和スベキコトニ非ルナリ。惣テ一物ノ理ハ。即萬物ノ  
理ニシテ。差別無レバ。我輩伎ノ上ニ於テモ。君臣。父子。夫婦。兄弟ノ  
道ノ見レテ明ナルガ如ク。易簡ニシテ知易ク行易キ所ニ從テ。其  
心ヲ盡スニ如ハナシ。故ニ孟子ニ。盡其心者。知其性也。知其性。則知  
天矣。トイヒテ。心ニハ。天地間ノ衆理ヲ具タルモノナレバ。再其事  
ヲ説テ。萬物皆備於我矣。反身而誠。樂莫大焉。強恕而行。求仁莫近焉。  
トイヘルモ。此義ニテ。實理自然ノ誠ノ上ニ心ヲ盡シ。已ニ克テ他  
ヲ顧ルコトナケレバ。事物ノ理ハ。自ラ明ニナル。此理ヲ明ニ窮得  
ルトキニハ。俗情妄慮ハ。決シテ起ヌモノナレバ。予ハ此窮理ヲ以  
テ。鑿學ノ極旨トハスルナリ。而シテ此心ヲ載テ。此形體ヲ使令ス

ルモノハ。即天地ノ間ニ充塞シタル大氣ニシテ。此氣ハ人ノ身體  
ニ往來シ。人ノ氣息トナリテ。晝夜間斷ナク循環シテ止コトナキ。  
形質アル一物ニテ。人身ノ用ハ。全ク此氣ヲ司ル所ナリ。而テ其氣  
中ニ在テ。靈明不可思議ノ者ヲ指テ。心トモ神識トモ精神トモ云。  
此精神ニハ。聲ハナク臭モナク。亦形質ノ言ベキナク。唯此氣ニ乘  
ジ來リテ。此身體ニ舍リ。其用ヲナスモノナリ。故ニ天地四方。至微  
至細ノ末。徹上徹下ニ交通スル者ハ。即此氣ノ運用ニシテ。前ノ第  
四問ニ  
論ズル所ノ屈伸張壓ノカ  
モ。悉皆此氣ノ運用ナリ。至誠ノ神ヲ感ゼシメ。有苗ノ狄ガオノ  
レト降參セシガ如キ。此ニ擊バ彼ニ響モ。亦此氣ノ感應ニヨル者  
ニシテ。之ヲ主宰スル者ハ。即精神ナリ。此氣ヲ指テ直ニ精神トハ  
イフ者アリ。是大ナル誤ナ  
リ。此段ハ容易ニ領解シ難キコトニ孟子ガ。至大至剛。以直養而無  
テ。此ニハ其梗槩ヲ言ルマデナリ。

害則塞乎天地之間ト言トコロノ浩然ノ氣トハ。即此氣ヲ指タル  
モノニテ。人ノ動靜運為。一切ノ所行ハ。盡ク此氣ニ預ラザルコト  
ナシ。故ニ此義ヲ說テ。志壹則動氣。氣壹則動志。今夫蹶者趨者。是氣  
也。而反動其心也。トイフテ。步履ヲ謹ズシテ趨走リ。若ハ顛躓スル  
スラ。其心ヲ動スモノナレバ。安慮ノ僅ニ動コトアルモ。直ニ此氣  
ニ陟テ心ノ煩トナルコトヲ論ジタルナリ。然ルヲ况ヤ西戎學ニ  
ノミ志ヲ壹ニシテ。翻譯等ノ事件ニ心ヲ任子。一身ノカヲ其事ニ  
盡テ。遂ニハ己ガ身ノ大皇國ノ人タルコトヲ忘失シテ。戎狄ノ行  
ヲナシ。解剖等ノ事ヲ專務トスル者ニ於テヲヤ。其初ヲ尋レバ。己  
ガ好トコロノ俗情俗慮ノ私心僻見ヨリ發シテ。遂ニハ惻怛ノ情  
ヲモ挫折シテ。禽獸ノ所行ヲ慊トスルニ至レルナリ。世ニ如斯人

ノ多クナリユキヲルヨリ。外虜モ覬覦ノ意ヲ生ズルハ。自然ナル  
勢ニテ。方ハ類ヲ以聚ル。佛者ノ所謂引業カトカイフモノナレバ。  
予ハソレヲノ徒ヲ指テ。鑿中ノ蠹蟬トハ稱スルナリ。故ニ今吾子  
能此華夷ノ差別ヲ明ニシテ。此蠹蟬ノ徒トナルコトナク。能其心  
ヲ清潔ニシテ。物欲ノ為ニ濁サレズ。毀譽榮辱ノ為ニ動サレザル  
ヤウニセラルベシ。今直截ニ其要ヲ得ントスルニハ。往歳予ガ著  
シタル。病家須知ノ首卷。及養生訣ト題セシ書トモニ。飲食。寤寐。身  
體。氣息。心意ノ五事ヲ調適シテ。之ヲ脩行スベキ術ヲ示タルニ從  
ヲ可トス。詳悉ナルコトハ。養生要畧等ノ書ニ記タルヲ看テ自得  
セラル可ト雖。此項。四民養生談ヲ草シ。ソノ首卷ニ。此先其五事ノ  
槩略ヲイハシ。第一ニハ。飲食ヲ節減シテ。腸胃ヲシテ平常ニ餘裕

アラシムルナリ。此飲食ヲ會テ。飽マテ飲啖スルコトカ習慣トナ  
リ。心ノ癖トナルトキニハ。周身ノ血液稠濃混濁ニナリテ。心意イ  
ツトナク屈滯シ。氣色舒暢セズ。清爽ナラザルヲ以テ。思慮漸ニ昏  
昧ニナリユクモノナリ。第二ニハ。睡眠ヲ節減シテ。朝ハ日ノイマ  
ダ出ヌウチニ起。晝ハ炎暑ノ時トイフトモ。決シテ横卧スルコト  
ナク。務テ懶怠ヲ誠ベシ。飲食過多ナレバ。睡眠モ必從テ過多ニナ  
リヌルモノナレバ。先飲食ヲ節減シ。飲酒ヲ誠テ。次ニ睡眠ヲ節減  
スベシ。第三ニハ。行住坐卧ニ意ヲ用テ。能身體ヲ調和シ。夜卧ニハ  
必右ヲ下ニシテ睡ニ就ベシ。スベテ身體ヲ舒暢スルヤウニ為慣  
スベシ。第四ニハ。出入ノ氣息ヲ調和シテ。必人身ノ樞軸ナル臍下  
ニ到ラシメ。天心ト地心ト人身ノ中心ト相通シテ。此氣ノ往来ニ

障礙ナカラシムベシ。是乃チ延壽增慧ノ妙訣。一切ノ病苦ヲ消除シ。道義ヲ了悟セシムルトコロノ法ニシテ。宋儒ノ静坐。佛者ノ坐禪モ。唯此氣息ヲ調和シ。氣ヲ臍下ニ收攝セシメンガ為ナリ。サレド此氣息ガ遠ニ調和シ難キヲ以テ。竺土ノ大比丘三千威儀トイフ書中ニ。革ヲ用テ製シタル。禪帶トイフモノヲ出シテ。腹ヲ紮セタリシハ。至テ捷便ナル法ナリ。氣息既ニ調和シテ。臍下ニ到コトヲ得レバ。胃府ハ漸ニ滯ノ下ニナリ。心下ニ餘隙ノ地ヲ得ルヲ以テ。心下ハ柔軟ニシテ。痞塞スルコトナク。臍下充實シテ。豐滿シ。身體スベテ上輕ク下豊ニナリテ。上衝。痺癢。肩背強痛ノ患。一切アルコトナシ。徳本ガ病ヲ診スルニ。臍下丹田へ氣ヲ納ヨトイヒシハ。此事ヲ教シナリ。又此法ヲ用テ。癩證。疝瘕。婦人ノ藏躁。スベテ上衝セル病ヲ治スルノ効驗ハ。草根木皮ノ能及トコロニアラザルヲ以テ。予モ嘗テコレヲ摸シ。漬ニ藥汁ヲ以テセル。延壽帶ト稱物ヲ製セシナリ。第五ニハ。心意ヲ清爽ナラシムベキノ術ニシテ。能食眠體息ノ四事ヲ調和シ得ルトキハ。心意ハ從テ安ク定マリテ。思慮盡ク其度ヲ得ルヲ以テ。事物ノ理ヲ會得スルコトモ亦敏速ニシテ。萬事ニ應當シテ。障礙アルコトナク。意固必我ノ雜慮ハ。此ニ至テ一掃シ盡スベキナリ。董仲舒ガ言ニ。夫仁人正其誼。而不謀其利。明其道。而不計其功。トイヘルガ如ク。唯心ヲ盡シ已ニ克テ。何事ヲモ天命ニ委任。唯其道ヲ全ウシテ。其利ヲ謀コトナク。言行一致。内外一貫ニシテ。心ニ慚ランコトヲ求ルニハ。如サルベシ。是ハ予ガ數十年來實踐シテ。自得スル所ナルヲ以テ。言フ此ニ及ベルモ。

吾子ヲシテ醫事ニ深ク意ヲ用シメンコトヲ欲スレバ也。

一夕醫話卷下

明治壬子九月十四日再讀了 白峰

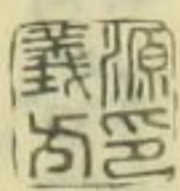
再刻一夕醫話跋

甚哉近世醫流之不知耻也。希世媚俗。百方自售。扣其方技之術。漠然莫能對也。至於西洋醫流。索奇僻。惑庸衆。混華夷。傷風俗。則其弊又甚焉者。此皆由杏林無人。則可不謂醫術掃地也歟。革窟先生深慨于此。著書辨論。最力闡洋方之害焉。業軒岐者。苟聽其說。或愧于面。而革于心矣。醫術之復古。庶幾可得而期也。若當路者。亦視其言之

近於政理。取以參時議。其有裨于世道。豈淺少哉。  
義方聞上鑿之國。其次疾人。噫。若先生者。真鑿國  
手哉。不止於吉林有功也。義方不自量。恒竊抱杞  
人之憂。及一夕鑿話再剋成。乃錄此語。以置卷尾。  
亦聊庶幾申報國之萬一云爾。

慶應二歲四月上弦

門人桑名渡部義方謹誌



高橋豐珪書



